

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(朝日町)の概要

11月27日(水)に朝日町の朝日町役場で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「朝日Rookies(ルーキーズ)」の関係者の皆さん8名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

Q. 活動を通じて、楽しかったことや嬉しかったこと、自慢したいことなどをお伺いしたい。

- 地域に野球チームがなかったため、子どもたちが野球をできる環境をつくろうと思い創立した。現在のチームのメンバーは朝日小学校の児童30人で、火曜を除く週6日間、試合や練習をしている。これからも子どもと一緒に楽しみながら続けていきたいと思う。
- 野球を通じてチームワークの大切さや感謝の気持ちなどを学んでほしいため続けている。
- スポーツを通して「楽しい」、「苦しい」、「悔しい」というような経験が得られる。これは小学校に通うだけではできなかったと思う。仲間ができて、体力もついてき

たので、参加してよかったと思えるのではないか。もし、参加していなかったら、テレビやゲームしかやっていなかったと思う。

チームの方針で道具を大切にするように教えており、野球道具以外のものでも丁寧に扱うようになった。子どもがランドセルをきれいに使っていることに驚いている。先輩や仲間、他にもいろんな人と触れ合って学んで成長して行ってほしい。先輩の影響を受けて、子供のバッティングフォームが見るたびに変わっているのを見ると、自分なりに考えているんだと感じる。

うちの子どもは走る練習があまり得意でなく、辛いとは思いますが、そういう辛い思いを仲間と共有することで、これからも良い仲間になると思う。

グラウンドではコーチとして、家では親として息子に関わっている。グラウンドにいるときは、息子から敬語で話しかけられるが、家ではいつもの口調に変わり、使い分けができるようになったのを見ると、成長したと思う。野球を始めたころは、名前を呼んでも振り向くだけで返事はなく、グラウンドに遊びに来ているのかという感じだった。最近では帽子を取って挨拶ができるようになった。野球というスポーツを通じて人と関わりながら役割を覚えていけるのが良い。

子どもたちの中にも社会があり、子どもたち同士でコミュニケーションを取っている中に入っていくと、考え方が大人と全然違うことに気付く。自分が子どもの頃、外野からキャッチャーのポジションに変わったときに感じたことと、息子も同じようにポジションが変わったときに考えていることが全然違うと感じた。

最初は何もないところからスタートしたので、チームは弱く、いかに長いイニング試合をするかが目標だった。他のチームの方にいろんなことを教えていただき、協力してもらった結果、今がある。

以前は勝ちたいと思っていたが、最近は勝ち負けだけではなく、勝つための過程が重要だと気付いた。

創設して13年経つが保護者の協力が得られて頼みやすい環境ができてきた。保護者にできることはお願いするようにしている。

子どもが大きくなって一緒に野球したり、野球の会話ができるので、野球を通じて親子のつながりが保てる。野球をやっていたチームの仲間とも交流が続いていて、チームを離れて歳を取っても付き合いが続いている。

Q. 活動をしていく中で、どんなことが課題だと思っているか。

子どもは野球がそれほど好きではないが、どうすればもっと野球を好きになってくれるのか考えている。

新しくチームに入った人の中には、ルーキーズの方針とは違う考え方を持っている人もいるので、難しい部分はある。

施設は整っていて恵まれているが、団地もできて子どもが増えてきているのに、ルーキーズに入団してもらえない。活動する日が多くて負担があると思われるが、やってみたら楽しいと思う。プレーするのは子どもなので、それを止めてしまうのは残念である。子どものやりたいという気持ちを大切にしてほしい。

私が子どものころ、野球チームはなかったが、空き地や田んぼで遊んでいた。子ど

もの頃のように自由に遊んでいられるような地域になればいいと思う。

自分が小学生のころ、冬場でも外で遊ぶ子がたくさんいたが、今の子どもが外で遊んでいるのを見るのが少なく、親から手厚すぎる保護を受けているように思う。野球に限らず、子どもがやりたいということには、親が背中を押してあげることが大事だと思う。

活動は土日がメインになるので、仕事の都合で試合などに参加できないことがある。仕事がネックになるので、行政等で何らかのサポートをしてもらえたらと思う。試合を近所の人に見に来てもらいたいが、OBしか見に来てもらえない。グラウンドが住宅地から離れたところにあるのも原因だと思うが、ケーブルテレビなどでチームを取り上げてもらえればと思う。

練習が終わって帰ってくると、夜の7時過ぎくらいになるので心配している。今の時期は暗くなるので、朝日町の主要道路などを明るくしてほしい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

スポーツを通して、悔しいとか苦しいといった経験をすることは大事である。

今は野球をあまり好きではない子どもでも野球を続けていくと好きになるのではないか。子どもと一緒にうまくなっていくと思って野球をすればいいかもしれない。自分で抱え込まずに、みんなに手伝ってもらうことが練習と仕事を両立させるための秘訣ということだと思う。

子どものやりたい気持ちがあるときに、親が止めてしまうのは、その子が大プレーヤーになるかも知れない可能性を消してしまう。ある社長の話に「子どもの可能性をつぶすのは、人を殺すのと同じだ」ということを聞いたことがある。大人が背中を押してあげるようになればいいと思う。

道路の照明については、みんなで活動できるのも地域全体の治安がよくないとできないので、町や警察本部に話を伝える。



【朝日Rookies (ルーキーズ) とは】

「朝日Rookies」は、平成13年1月に創立した少年野球チームで、主に朝日小学校の児童で構成しています。スタッフ・保護者が一丸となり少年野球を通じて児童の健全育成や、地域スポーツの推進を図ることを目的とする皆さんです。